

「補足資料 1」

パウロの司牧書簡：

1. 「テモテへの手紙」パウロが、エフェソで彼の代理を務める司教（監督）テモテ個人に宛てた書簡と考えられる。

特に「テモテへの手紙 二」は、手紙が書かれたときのパウロの様子を知らせるのに大切な手掛かりを与えてくれる。それによれば、殉教を目の前に控え、パウロの波乱に満ちた使徒としての人生を終えようとして、書き送った遺言ともいえる内容である。ちなみに、執筆の場所は、ローマの獄中であつたことが窺^{うか}がえる。

2. 「テモテへの手紙 二」3章14節～4章2節の説明（年間第29主日の第二朗読）

「自分が学んで確信したことから離れてはなりません。」

(3.14)

まさに教会指導者の基本的姿勢である。

また、すべてのキリスト者にも当てはまる信仰の土台である。

しかも、確信の源は、聖書にほかならない。(3.14b-16)

特に幼い時から、聖書に親しむことが肝心である（申命記6.6-7参照）。

また、聖書の理解には、「聖書全体にわたってイエスについて書かれていることを十分に把握することが不可欠である。」（ルカ24.27参照）。